

## 766 鶴見岳 (1375m) ～由布岳 (1583)、九重山 (1787) ～大船山 (1786) 涌蓋山 (1500)、阿蘇山 (1592)

期 日 : 2011年(H23)11月3～5日(木・祭、金、土) 朝発2泊3日  
 山行地 : 大分県、熊本県  
 パーティー : 新ハイキング山行 39名  
 交通機関 : 飛行機、大型観光バス(レンタカー)  
 集 合 : 3日 羽田空港第2ビル 6:50  
 参加費 : 53,000円  
 宿 泊 : 3日湯布院カントリーロードYH、ゆふいん田舎村、4～5日阿蘇青少年交流の家  
 行動記録 : 行動コースおよび時間

月日	行動コース および 時間
11/3 (木・祭)	羽田空港 8:15→大分空港 10:10→別府ロープウェイ 10:55～11:20→山上駅 11:30 歩行開始 11:30…鶴見岳(昼食)11:40～12:00…西の窪 12:25…鶴見岳西登山口・由布 岳東登山口 12:50～13:05…由布岳東峰 15:20～40…西峰 16:00～05…マタエ 16: 20…由布岳南登山口 17:30 登山口→湯布院カントリーロードYH、ゆふいん田舎村 6:30 (登山行動時間6時間)
11/4 (金)	宿 5:00→九重山牧の戸登山口 6:00～10 歩行開始 6:10…沓掛山 6:35…西千里避難小屋 7:40…久住山 8:05…中岳 8:55… 久住分かれ 10:25…法華院温泉あせび小屋 11:10～35…大船山 13:15～25…坊がつる 14:35…雨ヶ池越 15:15…長者原 16:15 長者原駐車場 16:30→阿蘇青少年交流の家 17:50 (登山行動時間9時間50分)
11/5 (土)	宿 5:00→岳湯温泉 6:25 歩行開始 6:35…登山口 6:40…石ノ塔駐車場 7:15～7:30…涌蓋山 8:35…林道出合 9:20～(林道歩き往復) 10:15…登山口 11:30…岳湯温泉 11:35 岳湯温泉 11:35→阿蘇青少年交流の家 12:45 阿蘇山…仙酔尾根途中で下山。(涌蓋山登山行動時間5時間)
11/6 (日)	阿蘇青少年交流の家→熊本空港→羽田空港

### 一日目 鶴見岳～由布岳 (曇)

九州300名山初日。鶴見岳から由布岳への縦走。朝、東京発の飛行機は大分空港で既に10時を回っている。時間短縮のためロープウェイに乗り、鶴見岳山頂へは一足飛びで上がる。生憎のお天気で下界は真っ白。山上駅から3班に分かれて歩き出す。この山は別府市民に親しまれている山で、駅から七福神めぐりをしながら簡単に頂上に立てる。10分も階段を登ると山頂に出る。眺望はないがここで昼食を取り、すぐに下山にかかる。山頂近辺は既に紅葉時期を過ぎていたが、中腹の沢筋の道は緑に苔むした岩々に黄色く色づいた木々がよく映えていた。一時間で鶴見岳を歩き終え、西登山口へ下山。ここは道路を挟んで由布岳の東登山口でもある。



由布岳へ登る頃になると青空も顔を出す。落葉した樹林の中を歩くがしだいに傾斜を増す。ジグザグに登っていくと眼前に形の良い岩峰が現れ目を見張る。

鎖やロープに助けられハングした岩場を乗り越えながら進む。東登山口からのルート最後は意外と陰しいが面白い。39名という大世帯だが、休憩を含めてもコースタイム内で全員無事東峰へ到着。先程歩いた鶴見岳が

雲の中から頭を覗かせている。お鉢の向こうには西峰が呼んでいる。希望者はマタエから垂直な障子戸と言われる岩場を注意しながら登り、西峰を往復する。

その後は樹林帯の道をひたすら南登山口を目指して下山。秋のつるべ落としの夕暮れを心配しながらの下りだったが、どうにか懐電を使わずに下山できた。やはり九州は日の暮れるのが遅い事を実感する。



## 二日目 九重山～大船山（曇、雨）

バスが牧の戸峠に着いたのは6時、辺りはまだ暗い。日のくれるのも遅いが当然ながら夜の開けるのも遅い。懐電を着けながらおもむろに歩き出すが、それも10分程ですぐに明るくなる。沓掛山を過ぎ、一寸した岩場を越すと、広く緩やかな道となり九重の山並みが見渡せる。既に紅葉は終わっている。あちこちで湯けむりが白く上がっているのが見える。広々とした西千里ヶ浜には避難小屋が立っているが、こうゆう山は霧でも立ち込めたら方角が分からなくなりそうなのでやはり必要な小屋なのだろう。中岳の分岐からまずは久住山へ登る。次第に風も強くなり山頂ではとうとう雨具を付ける。分岐へ戻り中岳に登り返す。



九重最高ピークの中岳から「坊がつる讃歌」で有名な大船山を目の前に望みたかったが、いよいよガスも濃くなりそれも叶わず、当初の立中山から大船山ルート歩行を諦め、坊がつるから大船山の往復とする。幸い雨はさほどのこともなかったが、霧がひどくなってきたので全員揃って歩く。大船山へは時間もかかるので希望者のみの登頂となる。坊がつる避難



小屋辺りで昼食を取り一息入れて大船山の登頂にかかる。途中1回休憩を取り段原分岐からツツジをかき分けながら山頂へ。全山ミヤマキリシマの花に覆われた大船山はさぞかし素晴らしいことだろう。しかし今はただ深い霧の中に立つ山名柱と、岩に埋められた二等三角点が静かに我々を出迎えてくれるのみだ。帰路は坊がつるから雨ヶ池越を経由してバスの待つ長者原へ歩く。峠越えで思ったより時間はかかったが、足が揃い早く歩けた。

## 三日目 涌蓋山、阿蘇山（小雨のち曇）

三日目も早朝より出発する。バスは岳温泉を目指し、暗く細い道を奥深く入っていく。こんな山奥の温泉に沢山の旅館があるのには驚いた。

今日もバスを降りると小雨、早速雨具を付ける。涌蓋山登山口から木々の間を登っていくと30分ほどで石ノ塔駐車場に出る。この辺り帯は牧草地で牛の落とし物が多く要注意だ。もう雨も上がってきている。



林道の脇道から本格的な山道へと入り、急なカラマツ林を抜けていく。次第に広々とした笹の原を登っていくようになり、高度も上がり視界が開けて気持ちよく歩ける。しかし斜面が泥で滑りやすく結構大変だ。そんな道を注意しながら頑張ると、山頂に続く稜線に出てすぐ頂上にでる。まだ八

時半過ぎという早い登頂だ。広い山頂から九重連峰をはじめ360度見渡せるはずの山々は雲の中と残念だが、それでもカヤトの原が広がり、その先に町が俯瞰できる。湯けむりも上がり、風力発電の風車も並んでいる。晴れた日にのんびりと登ってみたい山だ。しかし風もあるので寒くならないうちにと班ごとに下山を始める。

下りは登り以上に滑らないよう慎重に降りる。林道と交差した所で、みんなの滑る様子を見てか、林道を下ることになる。しかし30分ほど歩くと、林道の方向違っているので戻り一時間余計に歩く。その後は来た道を下るが思ったより道の状態は良くなっており、登った時とは視点の違う景色を見ながら、広々とした牧草地の中を楽しんで歩く。カラフルな雨具の行列が続く。これもまた良し。登山口に着くと、薄暗い朝には気がつかなかったが、足湯らしき湯の出ている所があり、みんなで靴を洗いバスに乗り込む。



その後阿蘇山に向かうが、強風のため、仙酔尾根途中でやむなく下山する。

#### 四日目 熊本空港～羽田空港